

「阪谷の今を考える座談会」第7回 ご報告

開催日：令和5年11月17日（金） 午後7時～

場 所：阪谷公民館 2階 大広間

参加者：19名



テーマ：人に立ち寄ってもらえるような阪谷の魅力づくりや魅力発信について

- 南六呂師区が星空保護区に認定され、中部縦貫自動車道の整備も進んでいるなか、この阪谷地区に多くの人々が立ち寄ってもらえるような“阪谷の魅力”とは何でしょうか？
- ゲストの方が感じる外から見た魅力もお聞きしながら、話し合ってみましょう!!

【ゲスト】 矢村健一 さん（自然工房 野遊学舎）

野崎竜陽 さん（スターランドさかだに 支配人）

望月詩織 さん（地域おこし 協力隊）

- 率直な感想や日頃思っていることを自由に言い合おう!!



【座談会の目的やルール】

[目的]

- 阪谷地区の今について、みんなで思っていることや考えていることを自由に話し合っ、そこから地域の問題解決のヒントになるようなことがないか、阪谷の望ましい将来像とはなどについて考えましょう。
(※みなさん、地域のいろいろな団体や会で役などをされているとは思いますが、ここでは、一個人として思いや考えを言っていただければと思います。)

[ルール]

- この会で結論をとることはしません。みなさんの意見は貴重なご意見として主催側で参考にさせていただきます。ですので、他者の意見に同調するのは大いにOKですが、否定することはやめましょう。

[その他]

- この会で出た意見は、貴重な意見として公開（氏名等は公開しません）することにご了承ください。

【座談会（第7回）で出た感想、意見等】

【3テーブルに分かれて、テーブルごとで下記テーマ等について意見交換】

主なテーマ：人に立ち寄ってもらえるような阪谷の魅力づくりや魅力発信について

第1テーブル ※ゲスト 矢村氏 参加

- ◆ 阪谷地区は春夏秋冬豊かな自然環境に恵まれ、今年8月、星空保護区に認定されるなど魅力満載である。例えば、春季夜間、水田（棚田）の水面に映る月の美しさとその景色は格別である。
- ◆ 阪谷小学校の子どもたちが作成した「阪谷の宝の地図」に描かれているように、経ヶ岳噴火時の巨岩（伏石）が六呂師高原をはじめあちこちに点在し、地区の魅力の一つになっている。
- ◆ 石谷区やその周辺から眺める市街地は、素晴らしく魅力的である。とりわけ、「夕焼け」は筆舌に尽くせないほど美しい。

- ◆ 日本百名山の一つに荒島岳（富田地区）があるが、阪谷地区から見える荒島岳もまた趣がある。
- ◆ 阪谷地区の「魅力」（自然）を写生したり、写真を撮ったりする行事（イベント）を実施してはどうか。例えば、写生大会や写真撮影大会を実施し、審査会・授賞式を行い、「作品展」を開催する。上記のようなイベントを年中行事として毎年継続して実施すれば、今後、中部縦貫道の開通など道路交通網の整備と相まって、口コミあるいはSNSにより、参加者が徐々に増えていくと思われる。また、イベント会場（拠点）としては、「スターランドさかだに」が良いだろう。
- ◆ この豊かな自然環境を観光資源にしながら、商品化を進めることも一手である。商品化により資金を得て持続可能な産業を生み、将来雇用を生み出せるのではないか。例えば、紅葉の「葉っぱ」を活用し弁当箱の「仕切りバラン」にして、地域おこしをしているところもあると聞く。

第2テーブル ※ゲスト 野崎氏 参加

- ◆ 棚田はスケールの大きい自然の造形であり阪谷の魅力である。「棚田でビアガーデン」のようなイベントを実施してはどうか。棚田の水面に写る夕陽も素晴らしい風景である。
- ◆ 巨岩石についてはそれぞれ何かいわれや伝説があるのではと思う。子ども達からすると、何かのキャラクターに見えるとか、名前をつけたいとか、遊びたいとかいった思いがあるのではと思う。ただし、遊び場としては安全面の配慮には気をつけないといけない。そこからマップ作りやパワースポットなどにつなげていけないか。
- ◆ 阪谷の食材の美味しさは貴重であり、阪谷で食べる米、里芋、野菜は絶品である。阪谷地区で販売する体制づくりが必要である。
- ◆ 星空については、詳しい人に教えてもらってもっと星（空）のことを知り、望遠鏡などを使って体験し、それを周囲の人に伝える取り組みが大事である。
- ◆ アウトドアの拠点としてキャンプ場を展開してはどうか。「スターランドさかだに」にはその条件がそろっているように思う。

第3テーブル ※ゲスト 望月氏 参加

- ◆ 阪谷地区は米や里芋（たまねぎやじゃがいもなども）など食の魅力が大きい。大野市内の他の地区と比べても阪谷産はとてもおいしい。これは、水や空気など自然環境によるものと、それぞれの家での栽培の仕方や調理の仕方などにもよっていると思われる。こういったやり方を伝えていかなければいけない。

- ◆ ずっと阪谷地区に住んでいる人は、その食の美味しさを特別に感じていない人も多いと思う。阪谷の食材を使ったものとスーパーで買った食材を使ったもので同じ料理を作って食べ比べしてみると、その美味しさを再認識できると思う。以前はスターランドさかだにでの「食するつどい」の場でそういったことも行っていた。催しを実施する方は大変だと思うが、そういったことを地区の行事として残していけるといい。
- ◆ 阪谷独特のものを差別化して売り出していくと良いと思う。棚田の美しい風景やそこで収穫される美味しい作物などは阪谷独特だと思う。また、実際、棚田を維持管理している人はその手間がとても大変だと思うが、そのあたりも含めて「田舎体験ライフ」と銘打って体験参加してもらおうと、さらにその重みやありがたみというものが付加価値としてつくのではないかな。
- ◆ 人（人間性）の魅力もある。ずっとここに住んでいる人にはピンとこないかもしれないが、大野に移住してきて感じたのは、大野の人は、相手のことを思いやり、発想力が豊かで、自分が楽しいと思うことを他の人に提供してくれる人が多い。阪谷地区の人には移住して来て最初からいろいろなことで声をかけてもらった。